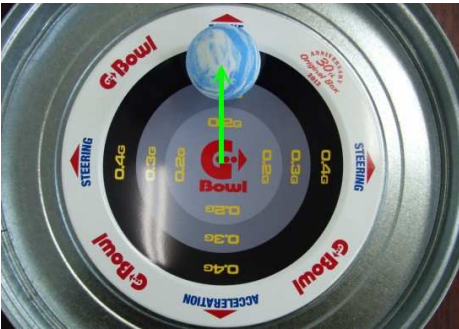


G - BOWLとGコントロール

1.はじめに



前後G (減速G)

車を走らせると、必然的に前後Gや横Gが発生し、ドライバーも助手席の人も乗員全員がGを体感することになります。

今までその様なGを意識しない方は、いきなり前後G?横G?と言われても何?という事になりそうなので、もう少し解りやすくご説明します。

例えば、アクセルを踏み込めば、頭が後に持っていかれるような加速Gが発生し、ブレーキを踏めばその逆に頭が前に倒れる方向に減速G (画像参照下さい)が発生します、これが前後Gです。



横G (旋回G)

次にハンドルを切って旋回をすると、頭が横方向に倒れる様に旋回G (画像参照下さい)が発生しますこれが横Gです、ですから車の走行時には一定速度で直進している時以外、常に何らかのGが発生しているのです。

それを踏まえて今度は、運転をGコントロールするという視点で見ると、例えば誰かの運転に乗せてもらった時、その運転が荒っぽい運転に感じるとすれば、前後Gや横Gの立ち上がりスムーズではなく唐突な場合とか、必要以上により大きなGが発生している(Gコントロールが上手く出来ていない運転)を体感するからなのです。

その様な時に同乗者が乗り物酔いをする場合があります、同乗者は視覚から得られる情報と実際に体感するGに差異が発生することで乗り物酔いをするそうです、一方運転者は自分の視覚に基づく操作と、連動するGを体感するだけなので乗り物酔いを起こす事が少ないそうです。

やさしく感じる運転は、ドライバーのGコントロールがうまくできていると言う事になります、Gの立ち上がりもスムーズで、必要最小限の大きさのGを発生させている運転は、ドライバーがGを意識して運転を組み立てた結果、同乗者にも快適運転となり、安全運転にも直結します、ですから運転のスキルアップをする為には、Gコントロールすることが最も重要と言うことになるのです。

そこで、Gコントロールのトレーニング用に考えたG - BOWLは、ボールの転がりとり鉢状の斜面を使って、Gの方向と強さを表わすことで、リアルタイムにGの向き及び強さが確認できるようにしたアイテムなのです。

G - BOWLでボールの転がりを自在に操れるようにトレーニングすれば、助手席の人もドライバーも安全、快適ドライブが楽しめます。

2. 使い方のポイント

ステップ1 . 車室内にG - B O W L をセットします。

助手席の足元又は後部座席の足元の床にG - B O W L をセットします、車が停止している時、ボールがお皿の中央にあることを確かめてください。

ステップ2 . まずはG - B O W L を意識せずにこれまでと同じ走らせ方で、いつもの道を走ってみましょう。

ステップ3 . ボールが落ちなければすでにGの管理ができている優れたドライバーである事が伺えます、ステップ8に進んで下さい。

ステップ4 . もしもボールが転がり落ちたとしたら、どの場面で落ちたかを確認しましょう、その時にやっていた操作も一緒に確かめて下さい。

例えば

ブレーキ開始直後に落ちた。

ブレーキを掛けている間に落ちた。

ハンドルを切り始めたら落ちた。

コーナーを曲がっている間にハンドルを切り増したら落ちたら。

ハンドルを切ったままアクセルを開けたら落ちた。

コーナーの立ち上がり付近で落ちた。

コーナーの切り返しで落ちた。

直線に戻る寸前に落ちた。

シフトチェンジした時に落ちた。

発進したら落ちた。

加速しようと思ってアクセルを開けたら落ちた。

信号停止したら停止寸前に落ちた。

それ以外。

ステップ5 . 次にボールがころがり落ちた時の操作が、単一操作中なのか、複合操作中なのかを確認しましょう。

単一操作とは・・・ブレーキ操作のみ、アクセル操作のみ、ハンドル操作のみの事です。(下記画像参照下さい)

複合操作とは・・・ブレーキを掛けながらハンドルを切る場合や、ハンドルを切った(切りながら)状態でアクセルを開ける、アクセルを開けながらハンドルを切る(戻す)など。



単一操作 (アクセル操作のみ)



複合操作 (ハンドルを切ってアクセル)

ステップ6 . ボールが落ちるタイミングがわかったら。

単一操作の場合であれば操作方法を変えてみましょう、ボールの転がり始めと、ボールが斜面を上がっていく速度は自分の操作しだい、というのを意識しましょう、又転がり出ないようにGの強さにも気を配りましょう。

対応策は、ボールを落とさない様、ゆっくりていねいに操作するのが良いか、まず転がり落ちるところ(限界)を探して、そこを越えないように調整していくのが良いか、自分に合う方法を見つけましょう。複合操作の場合は、どちらかの操作を加えた時(動かした時)にボールが落ちやすいはずで。

つまり、ハンドルを切り込む、アクセルを踏み込む、ブレーキを踏み込むといった、Gが増える方向の操作をした時に(操作を加えた時に)0.4Gを越えてしまうことが良くあります(G-BOWLは0.4Gを越えるとボールが落ちようになっています)。

そこで、まずは動かしたい操作をボールが落ちそうなタイミングの時に止めて様子を見ましょう。

その時、次に操作を加えるには、それ以外の他の操作をどうすれば良いのかを考えましょう(複合操作の場合は、それぞれの操作の合算時にも0.4Gを超えない様にしなければいけません)。

何度かボールを落とすと、“あっ落ちそう”と言うGの強さと、そのタイミングがわかってきます、ボールを見ながら走ると走りに支障をきたしますし危険です。

この“あっ落ちそう”がわかってくれば、時々チラッとボールをみるだけで事足りるようになります、極力ボールは見ないで走れるようトレーニングしましょう。

ステップ7 . ボールの転がる方向と転がり落ちないGの強さがわかってきたら、ボールを斜面に止める、つまり一定Gを極力持続するようにトライしてみましょう。

ブレーキGは、一旦減速Gを立ち上げたら途中で踏力を変えないのがコツです。

ハンドル操作による旋回Gは、ハンドルを固定するのがコツです(切り増し、途中戻しはNGです)。

加速Gを一定にするには、アクセルを繊細にかつ連続して踏み込む必要があります(これが実はなかなか難しい!)

- * Gを一定にする為には ~ の操作が目標ですが、交通流の中ではとてもむづかしいところがあります、周りに車のいない時にチャレンジしましょう。

3. 上級偏へステップアップ

ステップ8. Gのつながりに挑戦しましょう。

Gの方向とGの強さの加減ができるようになったら、次はGのつながりを意識しましょう。

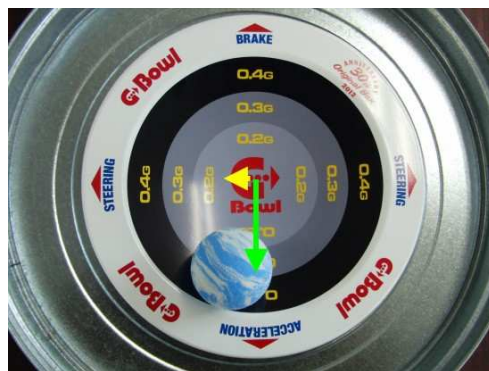
例 減速Gを立ち上げ、Gが戻らないようにして、横G(ハンドル操作を加える)を出し、横Gが立ち上がったからブレーキからソッと足を離します。

こうすることで、減速 旋回のGがつながります。



減速 旋回のGつながり

例 真横にかかっている横Gをアクセル操作を加えることで加速Gの方向に向けます、徐々に加速を強めていながら、入れ替えにハンドルを戻して横Gを減らします、こうすることで旋回 加速のGがつながります。



旋回 加速のGつながり

例 減速 旋回 加速とつなげることで、Gの切れ目がなく、コーナリングでき、とてもスムーズな運転になります。

Gのつながりが上手いくとG-BOWLのふちをボールが回るようになります、そこまで出来れば、Gのつながりはマスターできた事になります。

ステップ9 . Gコントロールのコツは、Gの立ち上げ、Gの戻しなどのGに変化をつけるといった時に起きるGの変わり目の一瞬に、注意を払った操作をすることと、Gの上限を極力揃えることでGコントロールのうまさ表現されます。

Gが途中でフラフラと変化することは、Gの変わり目が繰り返されることになり、不快な乗り心地に感じられます。

一方向のGをスムーズに立ち上げ、一定Gを持続させ、次にGの方向を変える又はていねいにGを戻す、といった操作が基本となります。

Gコントロールの達人を目指してドライブを楽しみながらトレーニングに励んで下さい。

最後にGコントロールが自在にできるようになれば、快適なドライブはもちろん、サーキット走行などもGの大きさを変えるだけなので、安全かつスムーズに適応できます、お試し下さい。

G - BOWLのふちを回す例



1



2



3



4

